

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ぶれも・市川ラボ【児童発達支援】		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数) 37名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・こどもの特性に応じた、専門性のある支援を提供できていること。	・こどもの全体発達の段階を捉え、より詳細なアセスメントを行ったうえで、こども一人ひとりの興味関心を合わせた内容を支援に組み込んでいる。	・今後もこどもの全体発達の段階を捉え、より詳細なアセスメントを行っていく。 ・すべてのスタッフがアセスメントを基に支援できるように研鑽を積む機会を作る。
2	・療育中は保護者が同席しており、日頃からこどもの状況を伝え合い発達の状況等について共通理解ができていること。	・療育中に保護者とも積極的に療育内容を共有し、家庭でも継続してできる内容を伝える。	・療育時間内だけでは時間が足りないことから、事業所内相談を活用して幅広く相談を行う。
3	・活動のスペースが十分に確保されており、清潔で心地よく過ごせる環境になっていること。	・療育の時間が重ならないように努めている。朝晩の清掃や換気等を適切に行い清潔さを維持している。	・スタッフで協力し合い、療育時間の調整や、環境整備に努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・当施設に通所のこどもが、地域で他のこどもと活動する機会が少ないこと。	・イベント等ではきょうだい児の参加もあり、交流の機会はある。しかし、地域のこどもが参加する機会は作れていない。	・通所のこどもと、地域のこどもが参加できるイベント等を検討していく。
2	・家族等も参加できる研修会や交流会に参加したいが日程が合わないとの声があること。	・保護者交流会が年2回と頻度が低い。	・好評を得ている交流会は特に、こまめに開催する。開催についてはお便りや、SNSだけでなく声掛けをして、周知を高める。
3	・非常災害の発生に備えた避難訓練等の周知が不十分なこと。	・スタッフの月1回の避難訓練や、こどもへの啓発活動の周知が不十分である。	・年度当初に避難経路を確認したり、こどもや保護者への啓発活動を定期的におこなったりしていく。